

ShinEtsu

しんえつ・レポート

第132期 上半期報告書

(2008年4月1日～2008年9月30日)



連結業績ハイライト



表紙の写真について

カナダ・ジャスパー高原のアサバスカ氷河(写真家・吉野 信 氏の作品/2008年信越グループカレンダー「NATURE AND LIFE 大地と生きる」より)

信越化学工業株式会社および連結子会社

(単位:百万円)

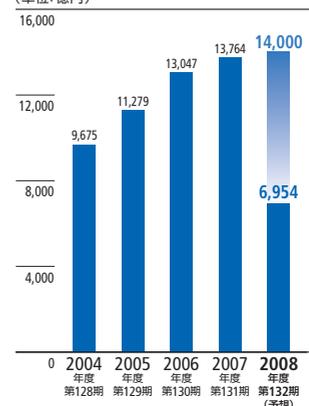
	2007年度		2008年度 上半期	2007年度 上半期比増減
	上半期	通 期		
売上高	687,736	1,376,364	695,413	[1.1%] 7,677
営業利益	140,042	287,145	150,101	[7.2%] 10,059
経常利益	146,023	300,040	156,519	[7.2%] 10,496
純利益	95,194	183,580	100,953	[6.0%] 5,759
1株当たり純利益	221.16円	426.63円	235.04円	13.88円
1株当たり配当金	40.00円	90.00円	50.00円	10円増配
純資産	1,453,105	1,483,669	1,513,795	
総資産	1,922,969	1,918,544	1,893,516	

見直しに関する注記事項

当資料に記載の業績見直しは、現在入手している情報による判断および仮定に基づいた見直しであり、リスクや不確実性を含んでいます。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら業績見直しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。実際の業績に影響を与え得る重要な要素には、当社および当社グループ会社の事業領域をとりまく経済情勢、市場の動向、対米ドルをはじめとする円の為替レートなどが含まれます。ただし、業績に影響を与え得る要素はこれらに限定されるものではありません。

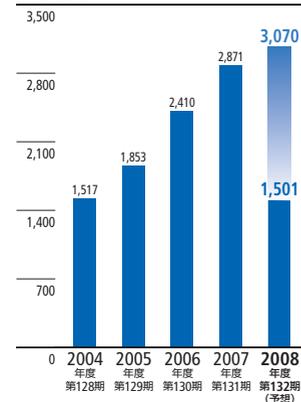
売上高

(単位:億円)



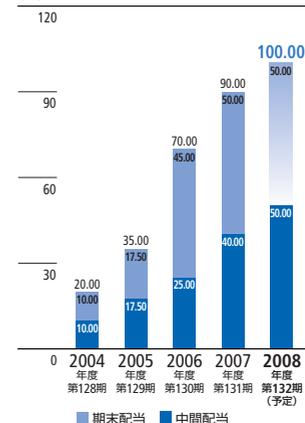
営業利益

(単位:億円)



1株当たり配当金

(円)



※2008年度の数値は上半期実績および通期の予想です。



大きく変動する経済環境の下で、
成長の機会をとらえ、
国際競争力をさらに強化しながら、
企業価値を高めていきます。

株主・投資家の皆さまにおかれましては、
平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
第132期(2008年度/2008年4月1日から2009年3月31日まで)の
上半期報告書をお届けするにあたり、ごあいさつ申し上げます。

代表取締役社長 金川 千尋

2008年度(2009年3月期)上半期の業績

当上半期の日本経済は、原油価格の高騰やサブプライムローン問題に端を発した米国経済の悪化や円高の影響により、個人消費や民間の設備投資が力強さを欠くなど、景気の減速傾向が明らかになりました。

このような状況のもと、信越グループは、世界の幅広い顧客への積極的な販売活動を展開するとともに、市況の動向を注視し適切な対応を行ってきました。同時に、生産能力の増強や新規製品の開発・事業化に鋭意取り組み、また、安全を常に最優先にした操業と環境の保全にも努めてきました。

この結果、当上半期の売上高は、前年同期に比べ1.1%増の6,954億1千3百万円となりました。営業利益は7.2%増の1,501億1百万円となり、経常利益も7.2%増の1,565億1千9百万円となりました。また、純利益は6.0%増の1,009億5千3百万円となり、いずれも前年同期を上回る伸長を達成しました。

さらなる発展に向けて

信越グループは、長期的な事業収益の拡大と企業体質の強化に取り組んでいます。企業価値の向上を目指し、内部留保金を設備投資、研究開発、M&Aに使用し、国際的な競争力の強化とさらなる事業展開を進めています。

直近の主な設備投資としては、米国のシンテック社が、ルイジアナ州に電解から塩化ビニル樹脂まで一貫生産を行うプラクマン工場を建設しています。すでに第一期工事が完了し、稼働を開始しました。直江津工場では、2008年9月に医薬用メチルセルロースの製造設備の増強を行いました。また、ドイツのSEタイロース社でも医薬用メチルセルロースの製造設備の建設を進め、生産拠点の複数化を図ります。その他の事業についても需要の伸びや将来性をとらえ、高品質な製品供給を行うための投資や、新規製品の研究開発、事業化を行っていきます。

2008年度下半期の主な取り組みと今後の展開

下半期につきましても世界的な景気後退が予測され、国内景気も景況感の悪化が鮮明になるなど、先行き厳しい状況が予想されます。このような環境のもとでも、信越グループは、需要が旺盛な地域への販売を積極的に展開するとともに、需要に即応した投資を実行していきます。また、昨今の原料の価格高騰に伴う製品価格の早期是正や、多様な原料供給元の確保に努めていきます。

コーポレート・ガバナンスの強化

信越グループは、経営上の重要課題として企業統治の強化にも積極的に取り組んでいます。なかでも内部統制の強化は、経営効率の向上や公正な企業活動とともに、社会的責任を全うする上で重要な課題です。このため、企業経営の経験豊富な方々に社外取締役、社外監査役として当社の経営や監督に参画していただいています。また、社内業務監査および内部統制の専門部署として業務監査部を設置するなど、

具体的な対応を図っています。

さらに、2008年4月からの日本版SOX法の適用開始に先立ち、2006年12月に内部統制推進チームを設置し、厳格な内部統制システムを導入しています。

企業の社会的責任 (CSR) を果たすために

信越グループは、遵法に徹し公正な企業活動を行い、「素材と技術を通じて、暮らしや産業、社会に貢献する」ことを企業理念としています。公正な企業活動により収益を上げて納税の義務を果たすことで社会に貢献すること、株主・投資家の皆さま、お客さま、お取引先さま、地域の皆さま、従業員の皆さまにご満足いただきながら発展していくことを企業の社会的責任ととらえ、日々の活動を通じてその実現に取り組んでいます。

利益配分について

利益配分については、長期的な観点に立ち、事業収益の拡大と企業体質の強化に注力し、そうした経営努力の成果を株主の皆さまに適正に還元する配当を行うことを、基本方針としています。この方針のもと、当期の中間配当金は前年同期より10円増額し、1株当たり50円としました。なお、年間配当金は前期より10円増配の1株につき100円を予定しています。

今後も現状に満足することなく「永遠に伸び続ける会社」を目指し、企業価値を持続的に高め、皆さまのご期待に応えていきたいと思っております。

株主・投資家の皆さまの一層のご理解、ご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

2008年11月

代表取締役社長

金川 千尋

シンエツは“いま”

信越グループは、素材メーカーとして高品質の製品を安定的に供給することを使命としています。今後も市場変化にあわせ、最適な生産・販売拠点を設置し、供給体制を整えていきます。

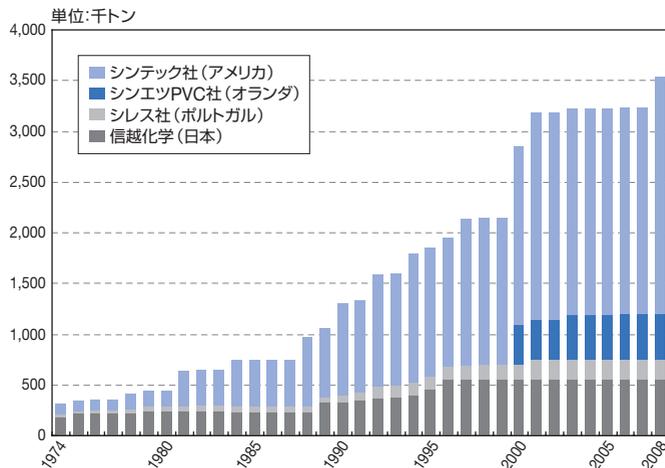
シンテック社 プラクマン工場第一期稼働

世界的に伸長している塩化ビニル樹脂(塩ビ)の需要に対応するため、米国のシンテック社がルイジアナ州プラクマンで建設を進めていた世界最先端の塩ビ一貫工場のうち、第一期工事の設備が稼働を開始しました。地下の岩塩ドームからの塩の掘削※1とその精製、電気分解※2、塩ビモノマー、塩ビまでのすべての製造工程を含むこの工場では、年間30万トンの塩ビの生産が行われます。今回の工場完成により同社の塩ビの年間生産能力は234万トンとなり、米国最大のメーカーの地位をさらに堅固なものとなりました。

米国は塩ビの原料となる天然ガスと塩を豊富に有し、また塩ビやか性ソーダの巨大な市場でもあります。シンテック社は、今後も当社グループの塩ビ供給基地として、増大する塩ビの世界の需要に応えていきます。

- ※1 岩塩ドームに井戸を掘り水を注入し、塩を溶かして取り出します。
- ※2 塩水を電気分解することによって、塩素やか性ソーダを製造します。

信越グループの塩化ビニル樹脂の生産能力



福島県西郷村に事業用地を取得

当社は、2008年8月に、福島県西白河郡西郷村に新たな事業用地を取得しました。ここから数キロメートルの場所の同村にある信越半導体(株)白河工場は、半導体シリコンウエハーの主力工場として、1984年から生産を行っています。今回取得した土地は、この白河工場と同様に清潔な工業用水などのユーティリティに恵まれ、また首都圏へのアクセスにも優れています。当社グループでは事業のさらなる拡大のために、この用地を活用していきます。



土地利用者協定書の調印式終了後に、握手を交わす3者。左から、佐藤雄平 福島県知事、秋谷文男 信越半導体(株)社長、佐藤正博 西郷村長。

事業概況

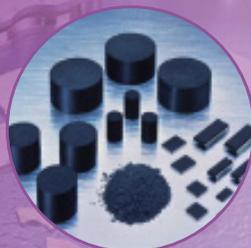
有機・無機化学品



<主な製品>

塩化ビニル樹脂／シリコン／メタノール／
クロロメタン／セルロース誘導体／キー
パッド／か性ソーダ／金属珪素／ポバ
ール／合成性フェロモン

電子材料



<主な製品>

半導体シリコン／電子産業用有機材料／電
子産業用希土類磁石／フォトレジスト製品

機能材料その他



<主な製品・業務>

合成石英製品／レア・アース／一般用希土類磁
石／液状フッ素エラストマー／ペリクル／技
術・プラント輸出／商品の輸出入／エンジニア
リング事業

有機・無機化学品

●2008年度上半期の事業概況

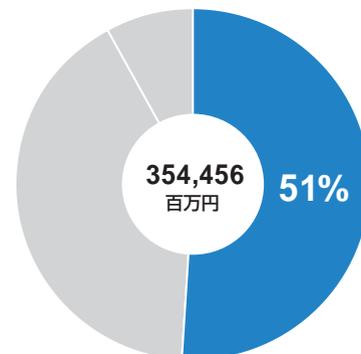
【塩化ビニル樹脂】 米国の住宅市場が低迷する中、米国のシンテック社は、長年にわたって培ってきた販売力を生かし、世界中の顧客への販売により、フル生産を継続しました。この結果、業績を大幅に伸ばしました。また、オランダのシンエツPVC社は欧州での販売が好調に推移し、業績が伸長しました。一方、国内事業は、原料価格の高騰や需要低迷の影響を受け、厳しい状況が続きました。

【シリコン】 車載・情報機器・化粧品向けなどの機能性製品が順調に推移したほか、原料高騰に伴う製品価格は正も寄与し、堅調に推移しました。一方、信越ポリマー(株)の携帯電話用キーパッドは、単価下落の影響を受け低調に推移しました。

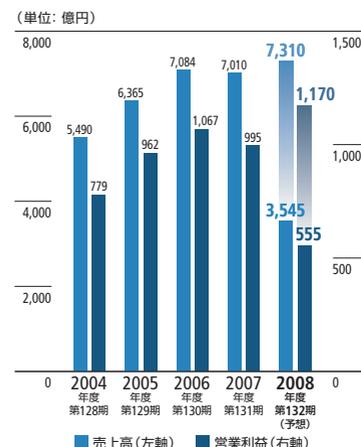
【その他】 セルロース誘導体は、国内事業は医薬品向けを中心に好調に推移しましたが、ドイツのSEタイロース社は建材向けの需要減少の影響を受けました。また、日本酢ビ・ポパール(株)は堅調な出荷が続いたほか、オーストラリアのシムコア社も金属珪素の製品価格の上昇により好調に推移しました。

この結果、売上高は、前年同期に比べ100億1千4百万円(2.9%)増加し、3,544億5千6百万円となり、営業利益も前年同期に比べ72億9千6百万円(15.1%)増加し、555億3千6百万円となりました。

売上高構成比



売上高および営業利益



※2008年度の数値は上半期実績および通期の予想です。

電子材料

●2008年度上半期の事業概況

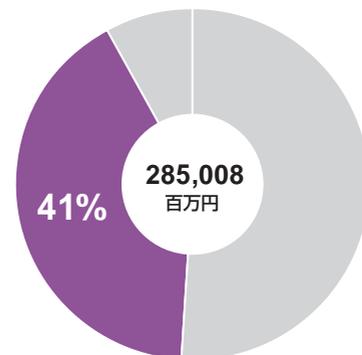
【半導体シリコン】 半導体デバイス需要の低下や、300mmウエハーへの移行が進んだことから、200mmウエハーは影響を受けましたが、主力の300mmウエハーは、世界中の顧客への販売に注力するとともに、生産性の向上などにも継続的に取り組んだ結果、業績は堅調に推移しました。なお、デバイスの高性能化の進展に伴い、2007年3月期に国内外の半導体製造設備の減価償却の耐用年数を、5年から主として3年に変更しています。また、今後も需要の拡大が期待される300mmウエハーについては、国内および米国で生産設備の増強を行い、2007年夏にすでに月産100万枚体制を構築しています。今後も需要に応じて増強していきます。

【電子産業用希土類磁石】 デスクトップパソコン用ハードディスクドライブの生産調整の影響を受け、低調に推移しました。

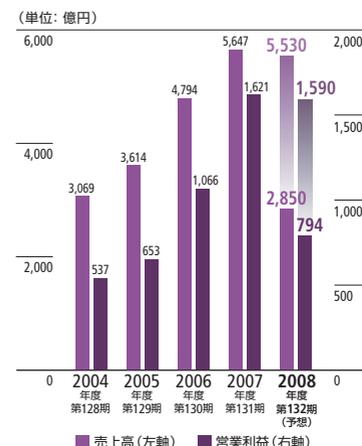
【その他】 フォトレジスト製品は、半導体デバイスメーカーの生産調整の影響を受けましたが、電子産業用有機材料は順調に推移しました。

この結果、売上高は、前年同期に比べ4億7千8百万円(0.2%)減少し、2,850億8百万円となりましたが、営業利益は前年同期に比べ4億3千3百万円(0.5%)増加し、794億4千万円となりました。

売上高構成比



売上高および営業利益



機能材料その他

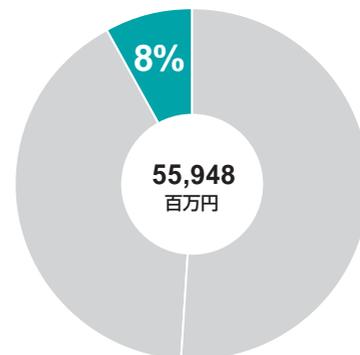
●2008年度上半期の事業概況

【合成石英】 世界的な通信データ量の増大により、コンピューターなどを利用した広域情報網の発展を支える光ファイバー用プリフォームは、堅調に推移しました。液晶用大型フォトマスク基板は、市況低迷により振るいませんでした。

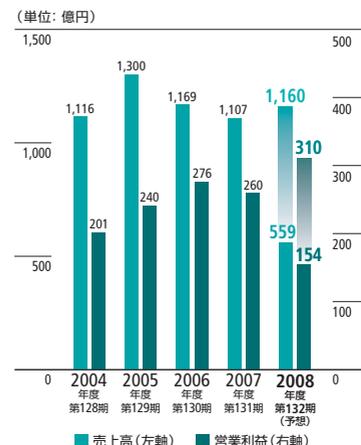
【一般用希土類磁石、その他機能材料】 一般用希土類磁石は、省エネルギー化、小型化、軽量化が要求されるエアコン、自動車向けなどの販売が好調に推移したことから、業績は伸長しました。なお、希土類磁石の主原料である希土類は高騰を続けているため、製品の値上げとともに、内部合理化や稼働率向上などにより継続的にコスト削減に努めています。また、液状フッ素エラストマーやペリクルの出荷も好調でした。

この結果、売上高は、前年同期に比べ18億5千9百万円(3.2%)減少し、559億4千8百万円となりましたが、営業利益は前年同期に比べ23億4千8百万円(18.1%)増加し、153億5千万円となりました。

売上高構成比



売上高および営業利益



※2008年度の数値は上半期実績および通期の予想です。

こんなところにも“シンエツ”



松山油脂(株) 「無添加ボディソープ」

セルロース誘導体は、天然の高分子セルロースからつくられる自然に優しい素材です。その用途は多岐にわたり、安全性を求められる医薬品、化粧品・トイレットリーの分野でも活躍しています。例えば、シャンプーやボディソープにセルロース誘導体を少量加えることで、気泡の安定性を高め、きめ細やかでクリーミーな泡が生まれます。

肌へのやさしさや洗浄力、泡立ちやすさから多くの方に愛用されている松山油脂(株)の「無添加ボディソープ」にも、当社のセルロース誘導体が採用されています。



ハイビジョンテレビ

電子産業用希土類磁石は、フェライト磁石の約10倍という強力な磁性を持つ高性能永久磁石です。ハードディスクドライブ(HDD)の中で映像・音声信号を読み書きするヘッドを駆動するためのモーターに使用され、HDDの小型化・軽量化、高特性化、省エネルギー化に貢献しています。

薄型、軽量を追求した結果、見た目も美しく、また動きのあるシーンを鮮明に映し出すハイビジョンテレビ。この製品に内蔵されているHDDレコーダーにも、当社の電子産業用希土類磁石が使用されています。



(株)ジーエス・ユアサインターナショナル ニッケル水素電池「eNi TIME (エニタイム)」

レア・アースは、原子番号57番から71番までの15元素に21番のスカンジウム、39番のイットリウムを加えた17元素の総称です。当社のレア・アースは、液晶テレビや照明などの蛍光体のほか、多くの電子部品や自動車のセンサー、光磁気ディスク、燃料電池などに利用され、その性能の向上に貢献しています。

満充電から1年たっても80%以上の残存容量を維持できる、(株)ジーエス・ユアサインターナショナル「eNi TIME (エニタイム)」。自然放電を克服したこの商品にも、当社のレア・アースが使用され、省エネルギーで、環境に優しい電池として注目されています。

連結決算の概要

貸借対照表

(単位:百万円)

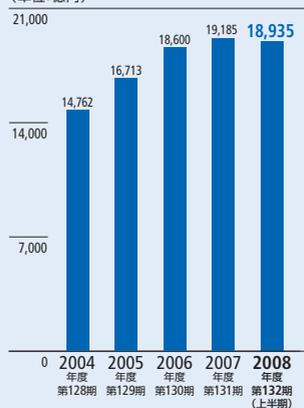
科 目	2007年 9月末	2008年 9月末
(資産の部)	(1,922,969)	(1,893,516)
流動資産	1,058,241	971,496
現金・預金	241,520	228,914
受取手形・売掛金	338,203	321,191
有価証券	221,812	148,315
たな卸資産	176,748	198,922
その他の	79,956	74,150
固定資産	864,728	922,020
有形固定資産	626,165	665,392
機械装置及び運搬具	221,668	231,136
その他	404,497	434,255
無形固定資産	26,500	23,731
投資その他の資産	212,061	232,896
投資有価証券	165,171	151,449
その他	46,889	81,447
資産合計	1,922,969	1,893,516

(単位:百万円)

科 目	2007年 9月末	2008年 9月末
(負債の部)	(469,864)	(379,721)
流動負債	400,261	323,798
支払手形・買掛金	148,447	140,890
短期借入金	9,979	7,504
その他	241,834	175,404
固定負債	69,602	55,922
長期借入金	24,435	19,399
その他	45,166	36,522
(純資産の部)	(1,453,105)	(1,513,795)
株主資本	1,327,047	1,464,755
資本金	119,419	119,419
資本剰余金	128,177	128,177
利益剰余金	1,092,955	1,245,336
自己株式	(-) 13,504	(-) 28,177
評価・換算差額等	82,410	3,265
新株予約権	1,619	2,446
少数株主持分	42,028	43,327
負債純資産合計	1,922,969	1,893,516

総資産

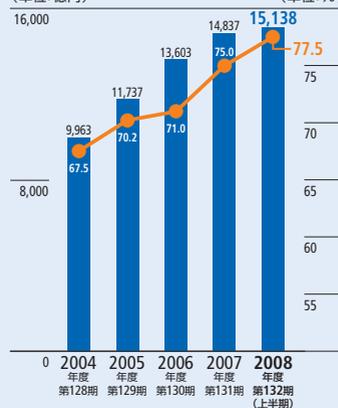
(単位:億円)



純資産/自己資本比率

(単位:億円)

(単位:%)



■ 純資産 ● 自己資本比率
 ※2005年度までの各事業年度の「純資産」の額は、「資本の部」の額を表示しています。

損益計算書

(単位:百万円)

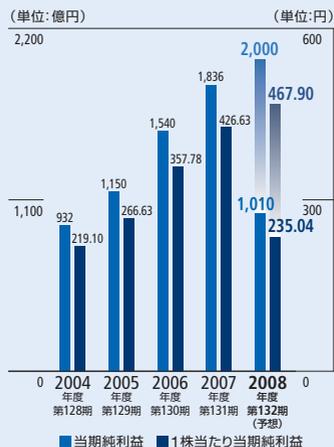
科 目	2007年度上半期 2007年4月1日 ～2007年9月30日	2008年度上半期 2008年4月1日 ～2008年9月30日
売上高	687,736	695,413
売上原価	473,345	482,245
売上総利益	214,391	213,168
販売費・一般管理費	74,348	63,066
営業利益	140,042	150,101
営業外収益	14,547	13,343
営業外費用	8,566	6,924
経常利益	146,023	156,519
特別利益	5,058	—
税金等調整前純利益	151,082	156,519
法人税・住民税・事業税	60,576	42,692
法人税等調整額	(-) 7,004	11,654
少数株主利益	2,315	1,220
純利益	95,194	100,953

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	2007年度上半期 2007年4月1日 ～2007年9月30日	2008年度上半期 2008年4月1日 ～2008年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	102,543	146,910
税金等調整前純利益	151,082	156,519
減価償却費	65,442	61,547
法人税等の支払額	(-) 71,079	(-) 44,090
その他	(-) 42,902	(-) 27,066
投資活動によるキャッシュ・フロー	(-) 121,604	(-) 100,183
有形固定資産取得による支出	(-) 135,322	(-) 110,010
その他	13,717	9,827
財務活動によるキャッシュ・フロー	(-) 38,194	(-) 43,452
借入金増減額	(-) 12,139	(-) 5,373
配当金の支払額	(-) 19,378	(-) 21,512
その他	(-) 6,676	(-) 16,566
現金及び現金同等物に係る換算差額	6,789	(-) 5,403
現金及び現金同等物の増減額	(-) 50,465	(-) 2,128
現金及び現金同等物の期首残高	404,532	301,619
現金及び現金同等物の上半期末残高	354,067	299,490

純利益／1株当たり純利益



※2008年度の数値は上半期実績および通期の予想です。

商号	信越化学工業株式会社		
本社	〒100-0004 東京都千代田区大手町二丁目6番1号 電話 03 (3246)5091 URL :http://www.shinetsu.co.jp		
設立	1926年9月16日		
役員	代表取締役社長	金川 千尋	取締役
	代表取締役専務	森 俊三 秋谷 文男 斉藤 恭彦	フランク・ピーター・ポポフ※1 河野 俊二※1 金子 昌資※1 宮崎 毅※1 石原 俊信 宮島 正紀 中村 敦 荒井 文男 笠原 俊幸 小根澤 英徳 轟 正彦 中村 健 秋本 俊哉
	常務取締役	幅田 紀一 小野 義昭 高杉 晃司	
			常勤監査役 岡田 理
			監査役 渡瀬 昌彦 福井 琢※2 小坂 義人※2 永野 紀吉※2
	※1 取締役フランク・ピーター・ポポフ、河野俊二、金子昌資および宮崎毅は会社法第2条第15号に定める社外取締役です。		
	※2 監査役福井琢、小坂義人および永野紀吉は会社法第2条第16号に定める社外監査役です。		
支店*	大阪支店、名古屋支店、福岡支店		
工場	直江津工場(新潟県)、武生工場(福井県)、群馬事業所/磯部工場・松井田工場(群馬県)、鹿島工場(茨城県)		
研究所	シリコン電子材料技術研究所、精密機能材料研究所(以上群馬県)、塩ビ・高分子材料研究所(茨城県)、合成技術研究所、新機能材料技術研究所(以上新潟県)、磁性材料研究所(福井県)		
従業員数	連結 20,300名(2008年9月30日現在)		
主要関係会社	シンテックINC.、信越半導体(株)、シンエツハンドウタイアメリカINC.、信越ポリマー(株)、S.E.H.マレーシアSDN.BHD.、シンエツPVC B.V.、信越エンジニアリング(株)、SEタイロースGmbH & Co.KG、シンエツハンドウタイヨーロッパLTD.、長野電子工業(株)、台湾信越半導体股份有限公司、直江津電子工業(株)、信越アステック(株)、三益半導体工業(株)、信越石英(株)、鹿島塩ビモノマー(株)		

※2008年6月30日付で北関東営業所(群馬県)を閉鎖しました。

株式の状況 (2008年9月30日現在)

発行する株式の総数	1,720,000,000株
発行済株式総数	432,106,693株
(注)自己株式4,665,096株が含まれております。	
資本金	119,419,688,785円
株主の総数	60,147名

大株主(上位10名)

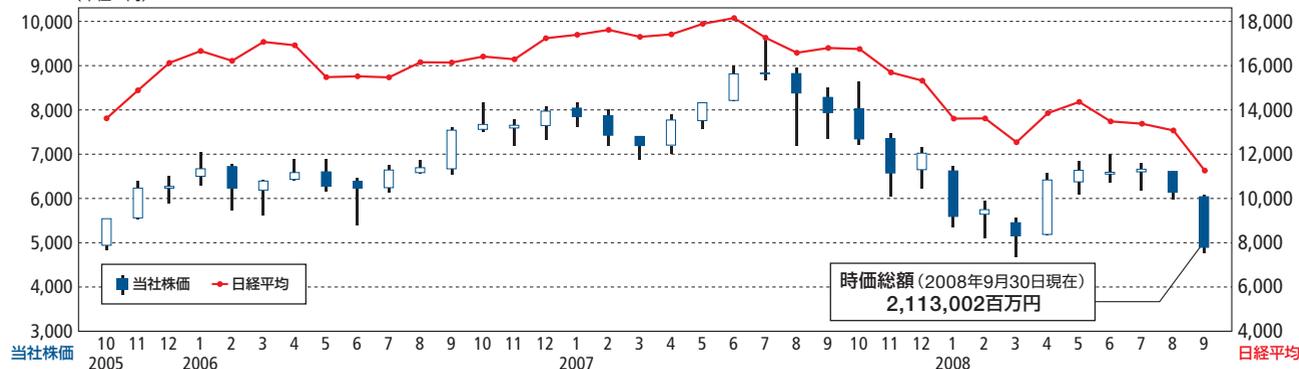
(千株未満は切捨表示)

株主名	持株数	出資比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	38,418 ^{千株}	9.0%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	33,834	7.9
日本生命保険相互会社	24,370	5.7
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4G)	12,945	3.0
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	12,582	2.9
株式会社八十二銀行	11,790	2.8
明治安田生命保険相互会社	11,529	2.7
日本興亜損害保険株式会社	10,077	2.4
株式会社三菱東京UFJ銀行	7,095	1.7
富国生命保険相互会社	5,903	1.4

(注)出資比率は自己株式(4,665,096株)を控除して計算しております。

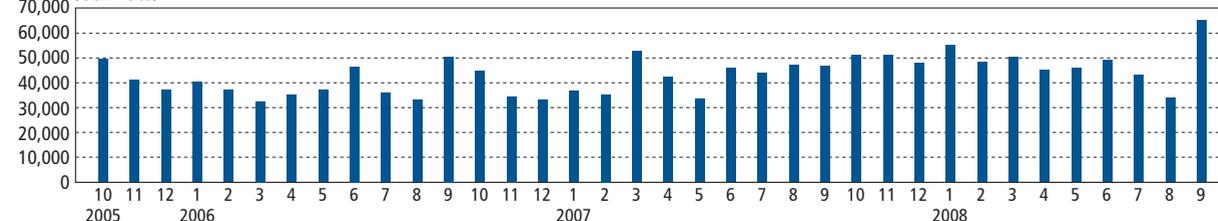
株価の推移

(単位:円)



出来高の推移

(単位:千株)



株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日
期末配当受領 3月31日
株主確定日
中間配当受領 9月30日
株主確定日
定時株主総会 毎年6月
公告掲載方法 電子公告により、当社ホームページ(<http://www.shinetsu.co.jp//index.shtm1>)に掲載いたします。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

単元株式数 100株
上場取引所 東京・大阪・名古屋
株式名義書換 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
(連絡先) 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)
同取次所※ 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
野村證券株式会社 全国本支店

※株券電子化後の各種お手続きは、原則として口座を開設されている証券会社経由で行っていただくこととなるため、株主名簿管理人の「取次所」は、株券電子化の実施時をもって廃止いたします。なお、未受領の配当金のお支払いにつきましては、引き続き株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行の本支店でお支払いいたします。

株券電子化前後における単元未満株式買取・買増のご請求について
株券電子化の前後においては、単元未満株式買取請求ならびに買増請求につきまして、以下のとおりとなりますので、ご留意下さい。

1. 保管振替制度をご利用でない単元未満株式に関するご請求
(1) 単元未満株式買取請求
平成21年1月5日(月)から平成21年1月25日(日)までは、受付をいたしません。
また、平成20年12月25日(木)から12月30日(火)までのご請求受付分につきましては、買取価格はご請求受付日の終値を適用いたしますが、買取代金のお支払いを平成21年1月30日(金)とさせていただきます。
(2) 単元未満株式買増請求
平成20年12月12日(金)から平成21年1月25日(日)までは、受付をいたしません。
2. 保管振替制度をご利用の単元未満株式に関するご請求につきましては、お取引の証券会社にお問い合わせ下さい。

お知らせ 株主に関するお手続き用紙(届出住所等の変更届、配当金振込指定書、単元未満株式買取請求書など)のご請求は、次の株主名簿管理人の電話およびインターネットのホームページで24時間承っておりますので、ご利用下さい。
なお、株券電子化実施後は、特別口座に記録された株式についてのお手続き用紙のみとなりますので、ご留意下さい。

電話 0120-244-479 (フリーダイヤル)
インターネットホームページ <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

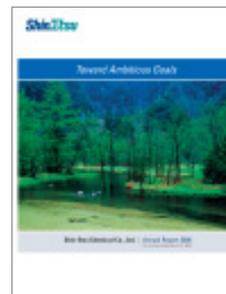
ShinEtsu
信越化学工業株式会社

〒100-0004 東京都千代田区大手町二丁目6番1号
電話 03 (3246) 5091 URL : <http://www.shinetsu.co.jp>
証券コード:4063

当社では、最新のIR情報のほか、当社をご理解いただくためのさまざまな情報を、メディアを通して発信しています。



ホームページ: <http://www.shinetsu.co.jp>



アニュアルレポート



この冊子は森林認証紙に
アメリカ大豆協会認定の大豆油インキで印刷されています。